



身近な自然の観察・記録活動 石神井川緑道版

2023.6.23

一人ひとりの自主活動 だれでも参加できます

活動：月2回(第二木曜日・第四金曜日)(雨天は小雨でも中止)
問合せ・連絡先：090-8646-9757 木村松夫 com-matchan@hotmail.co.jp

2023年8月までの石神井川観察は、7/13(木)、7/28(金)、8/10(木)、8/25(金)

9:30JR社宅(イーストハイム)前街路観察 10:00帝京大学病院北側の御成橋から再出発

草刈りの結果見苦しくなった街路



←ここは民間が管理する街路樹歩道。2週間前は左の写真のように足元が緑に包まれていたのに、草刈りをしたらかえって汚らしくなったのでは。

気を利かせれば気持ちの良い緑道になるのに



ある場所ではシロツメクサやアカツメクサが草刈りされずに残っているスポットがあります。また、確実に



草刈り対象場所なのにウマノアシガタの群生がしっかりと残されています(右上)。管理者の板橋区か草刈りを請け負っている業者か、はっきりしませんが、見応えがある花や希少な野草

を意識的に残していると考えられます。左上の写真の「ナンキンハゼの原っぱ」はちょうど良い具合の野草の展開で、とても気持ち良い広場になっています。地べたが露わになるような徹底草刈りでなく、草高20cmほどを残して刈るとか、背丈の高い草を選択的に抜き取るなど、やり方を変えれば、野草が生きられる緑道になるはずですよ。管理の仕方を変えればよいのです。

この中に9種の野草と1種の木本 そのすべてを大事にする緑道管理を望みます



写真左上にわずかに見えるサツキツツジのみが植栽された栽培種。あとは、ヨモギ、カタバミ、ブラジルコミカンソウ、キュウリグサ、コハコベ、ツユクサ、ノゲシ、ヤブガラシ、メヒシバの野草たち。こうした草たちが折り重なり互いに支え合って、まちのみどりを形づくっています。

そういうところに昆虫たちがやってくる

植物は、動物たちの食糧であり、水の補給源であり、羽を休める場所です。生命の源といってもよいでしょう。しかも、動物は植物の交配や伝播を助けます。相互依存しているのです。さらに、動物によって好みの植物は違うのだから、出来るだけ多様な種を残すことが重要なのです。

